

- ②-⑧ 特集 厚木を味わう
- ⑨ 街の話題/コラム
- ⑩ 産後ケアに訪問型を新設
- ⑪-⑫ お知らせ



## 特集 厚木を味わう

第1回厚木市民朝市の様子。白黒の写真をディープラーニングのAI技術などでカラー化（協力：東京工芸大学）

開設から半世紀

## 厚木市民朝市

1974年11月17日の日曜日。天気は曇り。旧厚木小学校跡地（現在の厚木バスセンター付近）には、早朝から長蛇の列ができていました。7時になりくす玉が割られ、花火が上がると、会場は地元で採れた野菜などを求める買い物客の熱気に包まれました。

厚木市民朝市は、第一次オイルショックによる物価高のあおりを受ける市民の暮らしを支えるため、地元の生産者が集い始めました。以来、市民の台所として親しまれ、今も文化会館駐車場で毎週日曜の6時に買い物客を迎えています。

11月17日、朝市は50年の節目を迎えます。物価高騰や米不足などが取りざたされる今、地元で採れた物を地域で味わう地産地消の在り方を見つめました。《2～8面に関連記事》

☎農業政策課 ☎225-2801

### 厚木市民朝市 50周年記念フェア



節目の年を記念して、特別な朝市を開催します。

《場所》文化会館駐車場

◆国内友好都市特産品販売

11月17日 6時～7時30分

◆全国朝市サミット特産品販売

11月24日 6～7時

◆県央やまなみ地域特産品販売

12月1日 6～7時

◆出張輪島朝市・三崎朝市のマグロ販売

12月8日

6時～7時30分



詳細はこちら

※1面のみ紙面の向きを変えています



2000回目の朝市



季節ごとの野菜が並び



出店者とお客さんの声でにぎわう

## 新鮮な物がいろいろそろう

朝市出店者組合 組合長  
伊藤 洋文さん (66・温水)

朝市が始まった時は高校生で、両親が店を出す手伝いをしていました。自分が出店者として関わり始めたのは朝市が6年目を迎えた頃からです。

当時は直接お客さんに商品を売れる場所が少なかったので、自分の作った野菜やナンをうれしそうに買っていくお客さんの姿が印象的でした。初めは農家による出店が多かったですが、希望を受け肉や魚、加工品の店にも参加してもらい「朝市に行けば何でもそろう」と思ってもらえる場所を全員でつくってきました。これからも時代に合わせ、形を変えながら続けていきたいです。

## 出店者の声

### お客さんと直接話せる場所



小宮 稔久さん (69・戸田)  
イチゴを中心に季節の野菜を出品しています。夢末市にも納品していますが、お客さんと直接話せるのは朝市ならではの魅力。「お薦めの食べ方は」など、自然と会話が生まれます。直接「おいしかった」と言ってもらえるとうれしくて、野菜作りにも張り合いがでます。

### 活気がある朝市

建部 和宏さん (54・栄町)

パンを出品しています。去年から出店を始めたが、お客さんにも出店者にも活気があるのが朝市の魅力だと思います。朝市をきっかけにお店に来てくれるお客さんもできて、いろいろな人に知ってもらえる良いきっかけになっています。

## 市民朝市出店者を募集

《対象》①市内在住で専業で農畜産物や加工食品などの生産製造などを営む②市内で生産された農畜産物や加工品を販売  
③年間37回以上出店できる④行事や会議、当番に協力できる⑤朝市出店者組合の目的・趣旨を理解し同組合員の推薦がある一の全てを満たす方

《費用》入会金3万円、年間組合費4万5000円  
☎農業政策課☎225-2801へ。

## 来場者の声

### 新鮮でおいしい食材を买える

ブルン・ロスニさん (40代)

1年前から毎週のように通っています。米や季節の野菜を買うことが多いです。どれも新鮮でおいしいので、通い続けたいと思います。

### 想像以上の活気に驚き

山口 保弘さん (36)

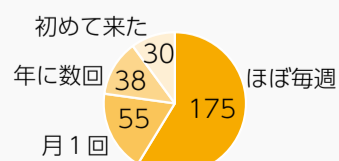
市外に住んでいますが、友人に勧められて来ました。加工品を中心に買いましたが、どのお店も活気があり、楽しかったです。

## 来場者アンケート

《期間》2022年4月10・17・24日

《回答》298件

Q.利用頻度は？



Q.市民朝市を訪れる理由は？

- ・新鮮な物が買える
- ・目当ての店がある
- ・価格が安い
- ・品質が良い
- ・旬の物が手に入る
- ・生産者との交流がある

## 朝市は人と人がつながる場

神奈川大学 国際日本学部  
歴史民俗学科 山本 志乃 教授 (59)



市民朝市のような「市」は日本各地で催されています。地域ごとに品目や運営方法は違い、店頭に並ぶ農産物にはその土地柄が表れています。厚木の朝市は、野菜や果物だけでなく、魚や肉、パン、豆腐など多様な食材が集まっているのが特徴です。規格がそろわず市場に出せないものを販売できたり、新鮮な物を安く購入できたりと、両者にメリットがあるのはもちろんですが、朝市の役割は人と人のつながりが生まれることだと思います。「これいくら？」「こうやって食べるとおいしい」など、生産者と消費者との自然な会話は、スーパーマーケットでは生まれません。会話やつながりが持てる、大切な場だと思います。

よく地産地消という言葉を目にします。地元の農家のためという理由もありますが、本来、地元の人々が地場の物を食べるのは当たり前のこと。鮮度はもちろん、その地で採れた旬の物を食べることは、人の自然な在り方ではないでしょうか。

市民の皆さんにとって必要だからこそ、50年間続いてきたのだと思います。AIの普及など世の中が変わる中、人と人が顔を合わせて言葉を交わす貴重な場であり、厚木の宝です。地域の生活文化を次世代に継承する役割もあるので今後も長く続けてほしいと思います。



▲旧厚木小学校跡地



▲1000回目の朝市



▲文化会館で開いた1回目の朝市

全国朝市サミット2003▶  
全国にある14の朝市団体が集まり朝市の活性化に向けて協議。石川県の輪島朝市なども参加



◀全国朝市サミット2013



◀出張輪島朝市  
2024年7・9月に輪島朝市の復興支援として厚木で開催

50周年記念朝市開催

2009年

温水にJAあつぎ農産物直売所「夢末市」がオープン



▲夢末市

2013年

全国朝市サミット2013を開催

2017年

2000回目の開催

2020年

農家人口2178人  
農地面積530㌥

2024年

三田にJAあつぎ営農経済センター「あぐりべえ」がオープン



▲グリーンセンター（あぐりべえ内）

朝市の歩み

厚木の出来事

1974年

県内初の朝市として第1回朝市を毎月末日曜に開催。24店舗が出店

1976年

市民の要望で月2回、日曜開催に

1980年

毎週日曜開催に。会場が厚木公園に移り、その後旧イトーヨーカ堂駐車場へ

1981年

15万人目の市民誕生

1982年

出店者登録数が54店舗に

1985年

厚木シティプラザオープン

1991年

20万人目の市民誕生

1994年

20周年記念朝市開催

1996年

あゆみ橋が開通

1997年

1000回目の開催 厚木中央公園オープン

1999年

荻野運動公園で夕焼け市が始まる

《日時》日曜

6～7時

《会場》文化会館駐車場

《商品》野菜、米、肉、魚、麺類、豆腐、果物、卵、カレー、花など



▲第1回夕焼け市

荻野運動公園で4～10月の水曜、17～18時に開催。市内産の農産物や加工食品などを販売

# 朝市と共に50年

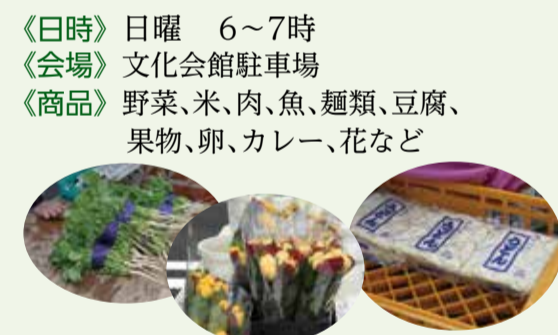
特集 厚木を味わう

地元食材を生産者から直接買える場として、半世紀続いてきた厚木市民朝市。50年の歩みを厚木の歴史と共に振り返ります。



## 厚木市民朝市とは

市内で採れた野菜をはじめ、旬の食材を生産者から直接購入できます。



## 50年前の厚木

高度経済成長期を迎え農地の開発が進み、多くの住宅や工場が建設。1968年には東名高速道路厚木インターチェンジも開設され、交通網が発展。75～80年には人口が約4万人増加するなど、人口流入が進んだ。



▲1965年頃の本厚木駅周辺

水田などが広がる。市の総人口は50年で約14万人増加したが、農家数・農地面積は約10分の1に減少した



はるみはコシヒカリと比べてツヤがあり、甘みや粘りが強いのが特徴

## こんな農産物も作っています



### 健康を支える一助に

ボケの実農園  
有江 久美子さん(56・三田)

5年前からボケの実を栽培しています。古くから漢方薬や観賞用に使われたバラ科の植物で、収穫した実をシロップにして販売しています。甘酸っぱく梅に近い味わいで、整腸作用や疲労回復、のどの痛みの緩和などの効果が期待できると言われています。厚木の新たな名物になり、幅広い年代の方に親んでもらいたいのです。

収穫前のボケの実

《販売場所》夢末市

### 季節で変わる蜂蜜の味

養蜂家 杉山 勲さん(82・愛名)

長年続けていた酪農を辞め、13年前に養蜂を始めました。蜂の病気や夏の猛暑など苦労もありますが、今は15箱を飼育し、採蜜からろ過、瓶詰め、梱包まで全て手作業で生産しています。蜂は季節の花の蜜を集めるので、春・夏・秋で味や香りが違います。味の違いを楽しんでみてください。

《販売場所》夢末市、グリーンセンター、直売所



店頭と並ぶ百花蜜

### 厚木の特産品の一つに

ラズベリー農家  
山本 卓史さん(30・温水)

大学からラズベリーを研究し、2023年に就農しました。ラズベリー農家は全国でも珍しく、栽培方法や病気の対処方法など、まだ前例が少ないので、日々勉強しながら経験を積んでいます。そのまま食べてもおいしく、料理や洋菓子などにも使える万能な果物です。今後は市場にも出荷し、厚木の特産品の一つになれるよう頑張っています。



6月に収穫期を迎える

霜島さんは、代々続く農家の3代目。幼い頃から農作業に励む父親の姿を見て育ちました。「ひたむきな姿勢が格好良くて自然と同じ道に進んでいた」。大学卒業後は農業協同組合に勤めながら知識を深め、2020年に就農しました。約16畝の田んぼで、父を含め3人で育てています。「天候や気温が変わる中、品質や量をそろえるのは難しい。台風などで稲が駄目になってしまったら、1年間で全て無駄になる」と話す霜島さん。お客さんにおいしい米を食べて

### 父と歩む米づくり

秋の気配が漂う9月。黄金色に染まった田園には5月に植えた苗が穂をつけ、こうべを垂れています。「今年もいいお米が育った。お客さんの元に届けられるのが楽しみ」と笑顔を见せる霜島邦夫さんは、田んぼの傍らにある作業場で収穫の準備を進めていました。



### 「おいしい」が原動力

霜島農園・飯山パイロットファーム  
霜島 邦夫さん(31・飯山)

### 選ばれるために

もらうため、暑さ対策や土壌改良などの工夫をしながら米作り励んでいます。

作っているお米は、神奈川生まれの品種「はるみ」を中心に、もち米や米粉に使用する専用品の3種類。収穫したお米は、直売やレストランなどの市内の飲食店、J Aあつぎなどに納めています。「作っている人の顔や場所、作業を見られるからこそ、良い物にこだわっている。同じ農作物であれば地場産の物を選んでほしい」と力を込めます。

農園では野菜やブドウ、ナシなども栽培。3年前からはSNSでの直売情報の発信にも力を入れています。「直接『おいしかった』と言葉をもらえた時が一番うれしい。これからも頑張ろうと思える」と笑みを浮かべます。食卓を厚木の農産物でいっぱいにする夢に向け、今日も霜島さんは田んぼに向かいます。



### 採れたての魅力

牧場 牧歌  
河内 賢一さん(49・王子)

ています。「プロッコリーがあつたらいいな」「カボチャも売っ

### 直売の良さを生かして

1974年に始まった市民朝市。大貫さんも、父親が第1回目に出店して以降、50年間続いています。それまでは市場に卸していたため、直売は朝市が初めて。「当時は小学5年生で、大量のネギをトラックに積んだり、お客さんに販売したりと手伝ったのを覚えている」と、大貫さんは振り返ります。

「直売はお客さんと顔を合わせて会話できるのが魅力」と、朝市では旬やおいしい野菜の見分け方などを伝えるだけでなく、お客さんの声にも耳を傾けています。「プロッコリーがあつたらいいな」「カボチャも売っ

### お客さんを笑顔に

大貫農園  
大貫 浩一さん(61・戸田)



「手をかけた野菜が立派に育って、良い物が収穫できた時はやっぱりうれしいね。そう話すのは、大貫浩一さん。温室や畑で、トマトとキュウリを中心にキャベツ、プロッコリー、ネギなど20種類以上を栽培し、夢末市や市まるごとショップあつまるに納めています。

### 農業を次世代に

大貫さんは息子の祐輝さん(30)と共に野菜を栽培しています。「収穫までに品質をそろえるのが難しい。最近は猛暑もあり、今までと同じ栽培方法では思い通りにならないことも多くなってきた」。2人で生育状況を見ながら、作物に栄養が行き渡るよう、肥料や土づくりなどにも力を入れます。

「野菜を通して厚木がにぎわってくれたらうれしい。元気なまちであれば、農業も盛り上がる」。市民朝市の店頭にも2人で立つ大貫さんは、ゆくゆくは祐輝さんを中心に野菜作りを続けてほしいと願っています。農業を次世代へつなぐ。未来への思いを胸に、今日も野菜作りに精を出しています。

### 変わらない味を届けたい

江戸屋養豚場  
小原 克江さん(44・上依知)



「丁寧に育てた豚を無事に送り出せたときはほっとする」。小原克江さんは、夫の光貴さんと二人三脚で3代続く養豚場を営んでいます。常時約300頭を飼育し、年間550頭ほどを出荷。J Aあつぎの夢末市やグリーンセンターで販売しています。

### 父の背中を追いかけて

幼い頃から養豚作業に励む父親の姿を見ていた克江さん。高校生の頃、「進路に迷った時、一人で頑張る父親の力になりたい」と思った」と、卒業後に就農。豚の飼育に必要なノウハウを一人から身に付けました。創業当初から変わらないこだわりは餌にあり、食堂や食品加工業者などで余った食材をリサイクルして使うエコフィードは、代々受け継いできた手法です。「リサイクル飼料は、資源を有効活用できる上に栄養があり食いつきもいい」と話す克江さん。時間をかけてよく育った豚は、一般的な出荷体重よりも10%増やすことで、「えとや豚」らしい柔らか

かく濃厚な味わいになります。

### 気持ちを込めて育てる

克江さんの一日は朝6時半の餌やりから始まります。豚舎の清掃や、健康状態などを小まめに確認し、豚になるべくストレスを与えない環境づくりを心がけています。「出産後の母豚や生まれたばかりの子豚は、特に繊細なケアが必要。表情や、鳴き声がいつもと同じか気を配ることが大切」と真剣なまなざしで話します。

今年5月、三田にグリーンセンターが完成しました。「今まで以上に地域の人が食べてくれる機会が増えてうれしい」。直接、味の感想やお薦めの調理方法を聞かれることが多くなったと笑顔を見せます。「地元の人たちに食べてもらえるのが一番うれしく、続けていくエネルギーになる。今後とも一頭でも多く健康な状態で送り出したい」と力を込める克江さん。周りの声を力に変え、これからも安心・安全でおいしい豚肉を食卓に届けていきます。

り始め、近くの小高い丘の上で牧場を開きました。

### チャレンジできる場を

河内さんのチーズは主に手作りのヨーグルトと搾りたての牛乳で作られます。うまみと香りのあるチーズの味の違いを一つ一つ直接説明しながら販売しています。

牧場では、河内さんが飼っている牛や羊の他、友人の羊やヤギを預かっています。酪農に挑戦したい人をサポートできるように飼育に必要なスペースを提供しています。「牧場を始めるのに必要な十分な土地や資金を集めるのは大変。自分と同じように、一から牧場を始める人の力になれたらうれしい」と話す河内さん。次の目標に向けて歩みを進めていきます。

## マルシェで味わう いち 市民朝市の他にも、各地で新しい市が始まっています。



屋台やキッチンカーなど70店舗ほどが出店



来場者を案内する鈴木さん

### ちっちゃ森マルシェ

**日時** 11月17日 10～15時  
**場所** 厚木農園  
**内容** 野菜、パン、手作り品の販売、キッチンカーの出店、イベントなど

●厚木農園 ☎080-4771-3110

### 小さな森の中のマルシェで地元産を楽しむ

厚木農園  
鈴木 恵示さん (31・飯山)

飯山の農園で月に1回、野菜や菓子、雑貨などを販売するマルシェを開いています。今までは農園で育てたイチゴ・ブルーベリーのもぎとりやトマトの販売などをしていましたが、農園の周りの自然を生かして、もっと多くのお客さんと触れ合える機会をつくりたいと考えマルシェを始めました。農園で育てた農産物の品ぞろえは収穫時期によってばらつきがありますが、四季を通じて人が集まれるよう、パン屋やキッチンカーなどの出店の他、イベントを開催しています。自然豊かな雰囲気や空間を気に入ってくれる人が多く、何度も足を運んでくれるお客さんや市外、県外から訪れる人もいます。販売だけでなく出店者とお客さん同士が顔を合わせ、新しいつながりが生まれる場になってほしいです。これからも厚木を活気づけ、地域を盛り上げていきたいです。

## 特集 厚木を味わう



暮らしと切り離せない食。生産者が思いを込めて育てた農畜産物は、多くの人の手を介して皆さんの元へ届きます。作る人と食べる人をつなぐ人たちに話を聞きました。

# 「おいしい」でつながる



スタートから3年目を迎える

### 森の里朝市「森もり市」

**日時** 5～12月の第2・4土曜 7時～7時30分  
**場所** 若宮公園西駐車場  
**内容** 新鮮な野菜、果物、パン、焼き菓子、総菜、花、麺、手作り品の販売

●森の里朝市実行委員会 ☎080-3442-8356



旬な野菜などが数多く並ぶ

## 直売所で味わう

採れたての野菜などが並ぶ直売所は、作る人と食べる人をつないでいます。

### 生産者とお客さんを近くに

市まるごとショップ「あつまる」店長  
萩原 ゆかりさん (57・厚木町)



市内の農家さんが育てた野菜や果物、花を販売しています。その日に売る野菜の種類や量、価格は全て農家さんが決めて、前日の夕方や当日に収穫された新鮮な食材が並びます。厚木産の野菜を目当てに来る方も多く、「収穫されたばかりで新鮮です」「今が旬でおいしいですよ」などと説明することもあります。農家さんと毎日顔を合せているので、お客さんから「おいしかったからまた買いたい」という声を聞くとうれしいです。これからも生産者の皆さんとお客さんをつなぐ場所でありたいです。



### 毎日変わる農畜産物との出会いを楽しんで

JAあつぎ農産物直売所「夢末市」店長  
清田 陽平さん (40)



600人以上の生産者が毎日新鮮な地場農畜産物を出荷し、常時1000点を超える商品がそろっています。店内では、農畜産物の他に、手作りの加工食品や手芸品、花の苗など、さまざまな商品を販売しています。開店前に生産者が商品を並べているので、納品次第で商品が変わるのも楽しめるポイントの一つです。ラベルには生産者の名前やお薦めの食べ方などが載っているので、思いを感じてもらえたらうれしいです。今後も、「厚木のおいしい」を届けていきます。



パクパクあつぎ産デーの給食を食べる藤塚中学校の生徒たち

### パクパクあつぎ産デー

市とJAあつぎが連携して、市内の小・中学校給食に厚木産の米・大豆・肉・野菜などを取り入れ、子どもたちが味わえる機会を設けています。

**実施回数** 月5回程度



厚木産のナスを使ったミートソース



農家から直接新鮮な野菜が届く



厚木のお米「はるみ」を月2回使用

### おうちで給食レシピ

児童・生徒に人気の献立を作る学校給食人気メニューや、地場農産物を取り入れたメニューを公開。学校栄養士のワンポイントアドバイスもあります。



詳細はこちら

## イ お店で味わう

市内産の農畜産物は飲食店にも届けられています。

市内で採れた農畜産物を使っている飲食店などを市観光協会HPで紹介しています。



詳細はこちら

### 食べ物の背景にある物語を知ってほしい



フードラボ  
2343FOODLABO運営 (株)日比野設計代表  
日比野 拓さん (52)

設計事務所を経営しながら、旭町で地場産の有機野菜を使ったレストランと保育園を運営しています。長年市内に事務所を構えていましたが、県外の仕事が多く、市内の人との関わりはほとんどありませんでした。園の給食とレストランに地場産の農産物を使いたいと思い調べてみると、こだわりを持って野菜を作っている農家さんがたくさんいることを知りました。実際に会って話すと皆さん面白くて、地域でのつながりがぐんと増えました。

有機栽培をしている農家さんの多くは小規模の畑で作っているので、商売につながりにくいです。今では農家さんや地場農産物の良さをもっと広めるために、生産者を紹介するフリーペーパーを作ったり、店舗で野菜を売ったりと、地域をつなぐお店を目指

しています。

価格面ではよその産地から大量に仕入れた方が安いですが、それでも地場産を使うのは、地域での循環を大事にしたいから。食べている物や作った人にも物語があります。保育園の子どもたちも、自分で収穫した野菜は不思議とよく食べます。背景を知って、それが身近な物ならなおさら、おいしく感じるのだと思います。どんな高級な料理よりも、採れたてを食べることが一番のぜいたくだと思います。



生産者との会話やつながりを大切にしている



厚木の野菜を使ったメニュー



## 特集 厚木を味わう

# 直売所 マップ

私たちの暮らしのすぐそばで、今日も野菜や果物が育っています。食べ物の向こう側にいる人たちの顔が見えると、特別なおいしさを味わえます。

市内で採れた農畜産物が買える店舗を地図にまとめました。厚木を味わってみませんか。

☎農業政策課 ☎225-2801・市観光協会 ☎240-1220



- 🚚…無人販売・事前に問い合わせ
- 🍂…季節限定
- 🏠…住所
- 📞…電話番号
- 🍎…主な販売商品

五十音順。販売時期は作物の種類や天候、生育状況により異なります。詳細は各店舗に問い合わせてください。

### JAあつぎ

- ① 夢末市 / 🏠 温水255 / ☎290-0141
- ② グリーンセンター / 🏠 三田1827-1 / ☎241-6150
- ③ 荻野農産物直売所 / 🏠 鳶尾5-26-28 / ☎241-6411
- ④ 玉川農産物直売所 / 🏠 小野2444 / ☎250-5300
- ⑤ Tomoni内夢末市出張販売所 / 🏠 泉町3-13
- ⑥ 依知農産物直売所 / 🏠 関口833 / ☎070-5081-1493
- ⑦ 睦合農産物直売所 / 🏠 妻田北4-8-1 / ☎296-0080

### もぎとり

- ① 厚木農園 / 🍎 イチゴ、ブルーベリー / 🏠 飯山3830-1 / ☎404-3307
- ② 苺一縁 / 🍎 イチゴ / 🏠 三田1604 / ☎404-3294 (野菜の直売もあり)
- ③ 内海いちご園 / 🍎 イチゴ / 🏠 下津古久696 / ☎228-6967
- ④ 杉山いちご園 / 🍎 イチゴ / 🏠 戸田1822 / ☎090-5213-0922
- ⑤ 清田苺園 / 🍎 イチゴ / 🏠 戸田1759 / ☎228-6857
- ⑥ 玉川ぶどう園 / 🍇 ブドウ / 🏠 小野1028 / ☎248-0464
- ⑦ Blueberry HILLSあつぎ / 🍇 ブルーベリー、サツマイモ / 🏠 上荻野2500付近 / ☎070-8490-1166

### 直売所

- ① 青空と大地 七沢温泉 食の市 / 🏠 七沢808 / ☎248-5555
- ② 青空と大地 食の市 / 🏠 恩名4-5-83 / ☎259-6422
- ③ 厚木市まるごとショップあつまる / 🏠 中町2-12-15アミューあつぎ / ☎240-1213
- ④ 🚚 いちごやかとし / 🍎 イチゴ / 🏠 戸田1266 / ☎090-8312-2349
- ⑤ うすいファーム / 🍖 豚肉他 / 🏠 上落合227-1 / ☎228-1326
- ⑥ 🚚 内田バラ園 / 🌸 バラ / 🏠 下津古久140-3 / ☎228-6969
- ⑦ 🍎 大野果樹園 / 🍎 ナシ、イチジク、リンゴ / 🏠 上依知2376-1 / ☎070-6577-2831
- ⑧ 🚚 大村バラ園 / 🌸 バラ / 🏠 下津古久162 / ☎228-6968
- ⑨ 🍎 加藤園 / 🍇 ブドウ、柿、ポポー / 🏠 下津古久208-1 / ☎228-5379
- ⑩ 🚚 小塩農園 / 🍎 ナシ、ブドウ / 🏠 戸田1040-1 / ☎228-6621
- ⑪ 🚚 小瀬村農園 / 🍆 野菜他 / 🏠 小野2106-1 / ☎247-0866
- ⑫ 🚚 霜島農園 / 🍌 米、野菜他 / 🏠 飯山389 / ☎241-0821

- ⑬ 🍎 鈴木果樹園 / 🍎 ナシ、ブドウ、柿 / 🏠 関口1119 / ☎245-1355
- ⑭ 🚚 清田園芸 / 🍌 鉢花 / 🏠 戸田1836 / ☎090-8858-8785
- ⑮ 🚚 清田農場 / 🌱 花や野菜の苗他 / 🏠 戸田1056 / ☎227-5706
- ⑯ 🚚 西山農場 / 🍆 トマト / 🏠 戸田1022 / ☎229-9203
- ⑰ 🚚 長谷川拓海 / 🍆 野菜、米 / 🏠 上荻野319-2 / ☎080-2376-1569
- ⑱ 🚚 古郡農園 / 🍆 トマト、キュウリ / 🏠 三田2194 / ☎090-1732-9310
- ⑲ 🚚 牧歌 / 🧀 チーズ / 🏠 王子1-12-9 / ☎080-1051-8994
- ⑳ 🍎 村田梨園 / 🍎 ナシ / 🏠 戸田495 / ☎228-0568
- ㉑ 🚚 柳下園 / 🍌 ハチミツ、ナシ、ブドウ他 / 🏠 長沼46 / ☎228-6348
- ㉒ 🚚 山口園芸 / 🍆 トマト、キュウリ他 / 🏠 戸田1440 / ☎090-9101-9345
- ㉓ 🚚 やまぼうし / 🍌 ハチミツ / 🏠 愛名422 / ☎247-0662
- ㉔ 🚚 和田農園 / 🍆 トマト、キュウリ / 🏠 戸田1059 / ☎228-0662



## 「あつぎSDG s パートナー」に37団体が仲間入り 楽しみながら学ぶ「あつぎSDG s フェスティバル」を開催



SDGsパートナー数は合計で144団体に

持続可能な開発目標SDGsを学べるイベントが、アミューあつぎで開催されました。市内の大学や企業などがブースを出展し、親子連れなど約2500人が訪れました。企業・団体などが参加できる「あつぎSDGsパートナー」の登録式も開催し、新たに37団体が仲間入りしました。

イベントは、SDGsを楽しく学んでもらうため、市地方創生推進プロジェクトが主催。市内大学生によるクイズラリーやボードゲーム「厚木市版Get The Point」の体験などを実施しました。間伐材のストラップ作りに参加した亀井柚菜さん(7・妻田)は「耳が聞こえない体験ができて来た。いろいろ作って、遊べて楽しかった」と笑顔を見せました。

## 交通事故防止を呼びかけ

市内15地区に「民間交通監視所」を設置

秋の全国交通安全運動期間(9月21～30日)に合わせ2日間、市内15地区に「民間交通監視所」が設置されました。自治会役員や交通安全指導員など約300人が、通行人に飲酒運転の根絶や高齢者・子どもの事故防止を呼びかけました。

この活動は、市交通安全対策協議会を主体に毎年実施。市内主要路線や交差点に設置した監視所の前にのぼりや赤色灯など掲出し、チラシや夜間に車の光を反射するリストバンドなどの啓発物品を手渡しました。

自治会長の新倉啓一さん(79・戸室)は「皆さんの交通安全に対する意識を高め、事故が1件でも減ればという思いで活動している。日頃から小学生の見守りなどしているが、継続して安全確保に努めたい」と話しました。



横断歩道で通行人に注意を呼びかけ

## 来年3月末まで市役所に募金箱を設置 能登半島での大雨災害への募金活動を実施

「令和6年9月能登半島大雨」災害義援金の、街頭募金活動を実施しました。市や市社会福祉協議会を主体に53人が参加し、本厚木・愛甲石田駅周辺で通行人に募金を呼びかけました。

募金活動は、災害に遭われた方たちを支援するために実施。買い物や帰宅などで駅の利用者が多い夕方の時間帯に、募金箱を持って街頭に立ちました。当日は、1時間ほどの活動で約16万7000円の募金が集まり、日本赤十字社を通じて被災地に送りしました。

市では、市役所本庁舎総合案内と、福祉総合支援課、地域包括ケア推進課に、来年3月まで募金箱を設置。

「令和6年能登半島地震」災害義援金の募金活動も、公共施設26カ所で行っています。



本厚木駅北口で募金を呼びかける山口市長

## 未来の厚木を語り合う

第11次総合計画策定に向けたワークショップを開催

新たな総合計画の策定に向け、中学生以上の市民を対象にしたワークショップ「あつぎ未来創造プロジェクト」を開催しました。無作為で選出した13～81歳の市民25人が市役所に集まり、まちの強み・弱み、厚木らしさなどを語り合いました。出された意見は、計画策定に生かしていきます。

ワークショップは、2026～35年度を計画期間とする総合計画の策定に向け、幅広い立場の市民が考えるまちの将来像や意見を聴くために開催。この日は、6グループに分かれ「あつぎの強みと弱み」をテーマに話し合いを開始。「山や川などがあり自然が豊か」「企業が多く財政基盤が整っている」「交通混雑する箇所が多い」などの意見が出されました。

市では、今後も中学・高校生と女性を対象にしたワークショップを開催します。



楽しい雰囲気の中で自由に意見を話し合った

## 県央やまなみ探訪

厚木・秦野・伊勢原市、愛川町、清川村の5市町村が観光振興で連携している「県央やまなみ地域」の魅力を、毎月順番に紹介します。紙面では伝えきれない5市町村の観光にまつわるコラムを、ニュースサイトでも紹介します。

### 第6回 湖畔のクリスマスツリー

丹沢山地に抱かれた首都圏最大級のダム、宮ヶ瀬ダム。その湖畔には、高さ30mのモミの木が立っています。クリスマスには電飾で彩られる大木は、湖に沈む運命の集落が「ふるさとを忘れないように」と続けてきた手作りイベントの主役でもありました。

神奈川唯一の村、清川村で、ことしも人気のイベントが、11月から始まる予定です。



宮ヶ瀬湖畔に立つモミの木。「ジャンボクリスマスツリー」になる

ニュースサイトで詳しく紹介しています▶

商業観光課 ☎225-2820



厚木市長 山口貴裕



生産者の皆さんとの会話も朝市の楽しみ

厚木市民朝市の会場できわ目を引く、蛍光オレンジ。きつと気になっている方もいらっしゃるでしょう。石川県輪島朝市の土産が特別販売された9月22日、私はこのTシャツ姿で買い物をしました。

このTシャツ、胸には「輪島朝市Z」の文字とマジニングZのシルエットがプリントされています。マジニングZの作者・永井豪さんのご親戚が輪島朝市の出店者で、元日の地震や9月の大雨で被害に見舞われ

輪島と厚木の朝市は共に全国朝市サミット協議会の仲間。厚木に朝市があったからこそ、この縁が生まれました。この地に根付く朝市は、生産者と消費者だけでなく、もっとたくさんの人や場所をつないでくれます。11月17日に朝市は開設50周年を迎え、記念フェアが始まります。地場産の農産物や加工品、輪島の海産物、県央やまなみ地域の特産品など、どれもみんなおいしいですよ。皆さんの来場をお待ちしています。

た輪島の皆さんに対し、少しでも力になればと、厚木に取り寄せて販売されました。輪島の土産購入や募金の後押しになればという思いから私もTシャツを着て会場を巡りました。私たちにできるのは、忘れないこと、そして支援を続けることです。

Q Zoom Up

母子へのサポートが自宅で受けられる

産後ケアに訪問型を新設

安心して子どもを産み育てられるよう、産前・産後のサポートをしています。これまで実施していた宿泊型・通所型に加え、4月から新たに訪問型を追加。より気軽に利用できるようになりました。子育て中の方が支援を受けやすい環境を整えていきます。

自宅で育児の相談ができる

産後ケアでは、健康管理や授乳などの育児相談をはじめ、乳房のケアや沐浴・抱っこなどの実技指導が受けられます（下欄参照）。訪問型を利用した

10月からは宿泊型の受け入れ施設として市立病院を追加。今後も受け入れ先を拡大するなど、体制を整えていきます。

孤立しない環境づくりを

昨年、市内では1000人以上の新しい命が誕生しました。産前・産後は体調や心の変化があり、不安定になりやすいため、適切なサポートやケアが必要です。産婦が安心して育児に向き合えるよう、2020年から、助産師や看護師のサポートが受けられる産後ケア事業を始めました。さらに4月からは、従来のショートステイ（宿泊）型とデイサービス（通所）型に加え、自宅でケアが受けられるアウトリーチ（訪問）型を追加しました。

産後ケアでは、健康管理や授乳などの育児相談をはじめ、乳房のケアや沐浴・抱っこなどの実技指導が受けられます（下欄参照）。訪問型を利用した

産前・産後のサポートは産後うつや育児ストレスの予防にもつながります。市では妊婦・産婦健康診査の費用の補助や、妊娠中の方や家族が育児・赤ちゃんの事を学べる講座、親同士が交流できる場（下欄参照）など、子育て中の方が孤立せず相談・交流できる環境づくりを進めています。

問 こども家庭センター ☎25-2597



助産師にマンツーマンで相談できる



辛いときだけでなく  
気軽に利用して

助産師  
橋本 一代

出産や育児に関する悩みは多岐にわたり、赤ちゃんの育ち方や特性もみんな違うので、一人一人悩み事は異なります。「こんなことぐらい」と思わずに、どんなことでもまずは話してみたいです。今年からアウトリーチ型が追加され、さらに10月からはショートステイ型の受け入れ先に市立病院が加わり、より利用しやすくなりました。核家族化が進み、相談できる人や頼れる人が身近にいない人も多くなっています。産後ケアをぜひ利用して、リフレッシュや悩みの解消に役立ててほしいと思います。

産後ケア事業

病院への宿泊や通所、自宅への訪問で助産師のサポートが受けられます。

《内容》 沐浴・抱っこなどの実技指導、授乳など育児に関する相談、乳房ケア

料金や申し込み方法は市HPに掲載	デイサービス (通所) 型	ショートステイ (宿泊) 型	アウトリーチ (訪問) 型
利用時間	10～15時 (平日のみ)	おおむね10時～ 最終日の10時	10時～または14時～ (1回2時間程度)
利用日数	7日まで	6泊7日まで	2日まで
利用可能施設	市立病院 塩塚産婦人科 並木産婦人科	市立病院(退院延長のみ) 塩塚産婦人科 並木産婦人科 厚木産婦人科	利用者の自宅

産前産後の相談・交流の場

助産師、保健師、管理栄養士に専門的な相談ができます。

■すこやかマタニティクラス

《内容》 妊娠周期に合わせた過ごし方や分娩の兆候、沐浴など

《対象》 妊婦とパートナーの方

■スマイルチェリー

《内容》 多胎出産・育児を経験した方の話や相談など

《対象》 多胎児と保護者または多胎妊娠中の方

いずれも対象は市内在住の方。詳しくは市HPに掲載。

■カンガルークラブ

《内容》 育児・栄養相談、子どもの身体計測など

《対象》 1歳未満の赤ちゃんと保護者

■パンダクラブ

《内容》 育児・栄養相談、子どもの身体計測など

《対象》 2500g未満で生まれた子どもと保護者



明るく楽しい  
地下道のフェスティバル

CHiKaフェス2024

たくさんの催しで地下道がにぎやかな空間に変わります。遊びに来ませんか。

☎企画政策課 ☎225-2450

日時 11月9・10日 10～17時  
場所 本厚木駅前東口地下道

■ハンドメイドマーケット  
販売会と子ども向けのワークショップ

■障がい者手づくり製品販売会  
福祉事業所に通う方が作ったかばんなどの手作り製品を販売

■けん玉教室  
日本けん玉協会会員が講師の教室。級位の認定あり

■ラジコン広場  
コースでのラジコンの操作体験など

■スタチューストリート  
銅像や人形になりきったパフォーマーが立ち並ぶ

■チョークアート  
チョークアーティストが路面に絵画を描く

■その他  
休憩所やアユモのブース、ガラポンなど  
いずれも☎不要。

詳細はこちら



## タウンガイド

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号  
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ  
 📺=講座予約システム(インターネットで申し込み可)  
 愛TV 11/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ  
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

## あつぎのしゃしん。



「ヒガンバナと稲」

#10月4日撮影

#小鮎川沿い

#稲穂

#niceatsugi

市公式インスタ

グラムで公開中

市民生活  
を応援

1万5000円以上の買い物で3000円が返ってくる

あつぎ生活応援  
キャッシュバック

先着11万5000人を対象に、市内店舗で買い物をしたレシートを集めて申請すると現金が返ってくるキャンペーンを実施します。

☎商業観光課 ☎225-2840



《申請開始》12月13日

《対象》申請時に市内在住の方

《申請方法》電子申請または郵送(1人1回)

## キャッシュバックの流れ

## ①合計1万5000円以上のレシートを集める

対象レシート=11月29日~2025年1月20日に市内店舗で発行(たばこや商品券、医療費などは除く)

## ②申請(同居家族まとめた申請も可)

電子申請=25年1月20日までにレシートなどをアップロード

郵送=25年1月10日(消印有効)までに公共施設などで配布する申請書などを郵送

## ③1人3000円をキャッシュバック

申請の受け付け後、1~2カ月で指定口座に振り込み

コールセンターは11月29日に開設予定

☎0120-306149



詳細はこちら

## 市民ふれあいマーケット

11月17日、9時30分~13時30分(雨天中止)。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などの不用品を100店舗が販売。☎環境事業課 ☎225-2793。



## リサイクル処理施設の見学

12月26日、9~17時。都市環境サービス(相模原市)他。市内で出された資源を処理する施設をバスで巡る。市内在住の方30人(小・中学生を優先)。無料。☎11月30日までに環境事業課 ☎225-2793へ。抽選。📄

## 応急手当普及員再講習会

12月7日、9~12時。消防本部。

応急手当普及員の有効期限の更新や技能の維持・向上の講習。有効期限(3年)以内に市内在住在勤在学の普及員30人。3960円(テキスト代)。☎11月1~11日に救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。📄

厚木歴史講座  
霜月騒動と安達一族

11月24日、14~16時。あつぎ市民交流プラザ。テレビドラマ「鎌倉殿の13人」で描かれていないその後の厚木を学芸員が解説。定員50人。無料。☎11月3~16日に厚木毛利氏プロジェクト・藤井 ☎070-6408-9125へ。先着順。☎あつぎ郷土博物館 ☎225-2515。

日本赤十字社救急法基礎・  
救急員養成講習会

12月8・14・15日(全3回)、9時30分~17時30分。保健福祉センター。人工呼吸や胸骨圧迫の方法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱い、急病やけがの手当て、搬送・救護方法などを学ぶ。15歳以上30人。3600円(教材代・保険料)。合格

者に認定証を交付。☎往復ハガキ、Eメールに講習名、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、電話番号を書き、11月15日(必着)までに〒243-8511地域包括ケア推進課 ☎225-2200・✉1910@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

## 健康測定会&amp;体操講座

12月10日、14時~15時30分。南毛利公民館。元気な体を維持するための講話とあゆこちゃん体操の実践、血管年齢、骨健康度測定。市内在住の40歳以上20人。無料。☎11月19日までに健康医療課 ☎225-2201へ。抽選。📄

## 保護者セミナー「学校に行きたくない」とつづやく子どもの関わり方

11月27日、15時30分~16時45分。あつぎ市民交流プラザ。子どもの気持ちに寄り添い、保護者にできることの講話と情報交換。子どもの学校生活に不安がある保護者など30人。☎11月1~26日に青少年教育相談センター ☎225-2520へ。先着順。

## 久保奨学金の奨学生を募集

高校などへの入学準備奨学金と、修学奨学金の希望者を募集します。《対象》①修学の意欲がある②経済的な理由により修学が困難③学業成績が優秀の全てを満たす市内在住で2025年4月に高校などへ入学予定の中学3年生20人。☎

市立中学校から配られるチラシを確認し、申請書などを12月4日までに担任の先生へ。市立中学校以外の方は教育総務課 ☎225-2600へ。選考あり。

## 教育委員会委員の任命

教育委員会委員の任期満了に伴い、10月16日付けで宮崎昌彦氏(66)が任命されました。☎教育総務課 ☎225-2600。

## 給与支払報告書などの配布

11月15日から給与支払報告書の総括表や個人別明細書などを配布します。

《配布場所》市民税課 《対象》事業所や事業主の方。☎市民税課 ☎225-2011。



《パブリックコメント》  
 公の施設の使用料等改定・受益者負担見直しに関する基本方針(公共施設付帯駐車場等編)策定

《閲覧期間》11月1日~12月2日  
 《閲覧場所》行政経営課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、あつぎ市民交流プラザ、中央図書館、保健福祉センター、市HP他《応募方法》閲覧場所にある用紙で確認。☎行政経営課 ☎225-2160。

厚木市 市民参加

検索



## 出場者を募集

## あつぎ駅伝競走大会

新春の風物詩・あつぎ駅伝の出場チームを募集します。

《日時》1月26日 9時30分~(雨天実施)

《対象》女子の部(20チーム)=6区間21.1キロ。

選手6人、監督1人、補欠5人以内。

一般・高校の部(各20チーム)=4区間21.6キロ。

選手4人、監督1人、補欠3人以内。

☎11月11日~12月12日に市HPから申し込み。先着順。



詳細はこちら

☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531

## ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

## 10月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆伝統芸能をつなぐ若い世代がいて心強く感じた/40代女性 ◆新たに带状疱疹の予防接種費用助成が始まったので、接種を考えてみようと思う/50代女性 ◆家庭から出るごみの2割が未開封食品で驚いた。一人一人の心がけで無駄な食品ロスは減らせる/50代男性 ◆古くから民俗芸能が継承されていて素晴らしい。これからも続いて欲しい/70代以上男性 ◆特別展で土偶を見に行きたい/30代女性

## 編集後記

年表を作るため、50年分の朝市の資料や写真を整理しました。報告書には当時のにぎわっている様子が書かれ、写真には笑顔のお客さんとお店の方が写っています。どんなことを話していたのだろうと思いながら紙面を作りました。今も朝市に行くと、皆さん楽しげに話しながら買い物をしています。時代や場所が変わっても朝市の魅力は変わらないのだと感じました/野口

にぎやか爆発

あつぎ国際大道芸

《日時》11月9・10日 11～18時  
《場所》本厚木駅周辺



- イベントが盛りだくさん
- ①あつぎ愛・物産フェア  
あつぎ技能祭
  - ②あつぎ消防団ふれあい広場(10日)
  - ③スーパーキッズランド  
なかちょう大通り出店村
  - ④あつぎグルメフェア
  - ⑤CHiKaフェス2024
  - ⑥南口ホコ天まつり(9日)
  - ⑦あつぎ一番街マルシェ



詳細は  
こちら

国内外から集結したアーティストの  
パフォーマンスを間近で楽しめるイベ  
ントです。 商業観光課 ☎225-2840



設置イメージ。小田急電鉄のマスコットキャラクターも登場

## あつぎイルミネーション2024

ランタンと金色をメインとしたかわいらしいデザインのイルミ  
ネーションで、冬の街を明るく照らします。

《期間》 2025年1月13日まで 16時30分～22時  
《場所》 本厚木駅前北口広場・南口駅前広場



商業観光課 ☎225-2840

## 自然歳時記

●ミヤマアカネ●  
トンボ科

体長30～40ミリのミヤマアカネは山沿いのゆるやかな川の流れや水田などで発生する。羽の端の方に濃い褐色の帯が見える。腹の部分が真っ赤になるのは雄の特徴／七沢の大沢川で見つけた。 写真・文／吉田文雄



残暑厳しい秋、ミヤマアカネが逆立ちをしていた。これは暑さ対策のための工夫である。

冬を過ごしたトンボの卵は、春になるとふ化しヤゴになる。ヤゴの時は水中で過ごし、ボウフラなどの小さな生き物を食べ、脱皮を繰り返し成虫へと羽化する。成虫になったト

ンボは稲に付く害虫を食べてくれるので、昔から益虫として人間に信頼され役立っている。

ミヤマアカネの雄は、全身が真っ赤になり日本一美しいトンボといわれている。トンボも人も同じ地球の仲間、共存共栄できる環境を守っていきたい。

厚木市の人口  
(10月1日現在)



世帯数 10万6153世帯 (前月比26世帯増)



22万3704人 (前月比87人減) 男11万5259人・女10万8445人